

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	38 / 2017 / 11-19 (再編集版)
タイトル	「森の広場」(青森・新城)の自然環境と生物リスト 第1回 - 「森の広場」の概要と動物リスト
著 者 名	石郷岡總一郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

「森の広場」(青森・新城)の自然環境と生物リスト

第1回 「森の広場」の概要と動物リスト

第25代 石郷岡 總一郎

序

2006年に始まった「森の広場市民観察会」にやぶなべ会が関わってから10年を超える期間が過ぎた。これまで「やぶなべ会報」にその都度観察会の概要が掲載されてきた。ただ、改めてやぶなべ会報を見直してみると、「森の広場」の自然環境自体を紹介している記事が無いことに気づかされる。そこで、手元にある「森の広場」に関する資料を元に、その自然環境や市民観察会に関することを2~3回に分けてまとめることにした。

なお、まとめた生物調査は「植物」・「鳥類」で行われ、相当正確なリストが得られている。ただ、動物関係の総合的な調査は実施されておらず、手元にある「動物種名リスト」は不完全な状態で有る。特に昆虫類に関しては、まだまだ不十分と思われる。このまとめに掲載する「動物リスト」は、手元にあった「森の広場市民観察会」関係者個人から提供していただいた資料に基づいて作成した。



写真1 市民観察会でミズバショウを観察

また、筆者自身、この観察会に関する全ての事項を把握しているわけでは無いので、状況説明など不完全な事柄があり得る事を予めお許し願いたい。

「森の広場」設置の経緯

「森の広場」設置の経緯と「森の広場市民観察会」開催の趣旨がまとめられているので、観察会で配布された「森の広場市民観察ガイドブック」掲載の文章をそのまま転載する。

太平洋戦争後、合浦公園に建設された市営競輪場の郊外移転に選択されたのが新城財産区所有の森林地帯でした。当時新城財産区から譲り受けた森林約53haの内、競輪場建設に要した22haの残存森林の利用法として考えたのが「スポーツその他の多目的広場」だったようです。名称は「森の広場」とし、管理棟、研修室、トイレなどの他、野球場、ゲートボール場などを林野庁補助事業である「生活環境保全整備事業」で整備したもので、管理運営は青森市生涯学習課スポーツ振興チーム所管の施設となりました。しかし、残念ながら利用者は野球同好者だけで、他に山菜採りの人が訪れる程度だったため、周辺の手入れも疎かにされ、せっかく整備したミズバショウ観察路も崩落したままになっています。地元新城の住民ですら知らない場所で長い間眠った状態の施設でした。

この度の青森市内自然愛好諸団体の合同観察会をきっかけに一般市民への啓蒙を計り、将

来的には「青森野草園」をも視野に入れた運動に発展できればと考えております。
遊歩道だけは毎年管理を委託されてきた「新城財産区縁故者委員会」の皆様により刈り払いが行われ、歩きやすく整備されております。四季折々の森林浴や草木の観察ルートとしてご利用下されば今回の合同観察会を企画した関係者一同の喜びでもあります。
市民観察会スタッフ一同 (2006.5)

「森の広場」の概要

「森の広場」は青森市の西部、新城地区にある青森競輪場の東側に隣接する。大まかな地形は、北北東に向かって開いた緩やかな谷で、標高は約40m～110m(高低差約70m)となっている。この谷に流入する水路は、西側の競輪場からの排水が主で、谷底には調整池が存在する。

「森の広場」を一周するように約2kmの観察路が設置され、観察路の間をつなぐ山道も何本か設置されている。ただ、路面状況の悪化などのため、実際に利用可能な山道は限られている。

植生は、「森の広場」造成以前からの樹種に加え、造成時に植栽された樹種も混在している。中央部の谷の底部は湿地になっており、ミズバショウの群落が見られる。谷の西側に比べ、東側はやや開いた明るい空間となっていて、谷を挟んだ東西の植物に若干の違いが見られる。

動物では、ゲンジボタル・ニホンザリガニ・モリアオガエルなどの生息が確認されている。

多目的広場としての「森の広場」には、野球グラウンド・ゲートボール場など3面のグラウンドがあるが、野球グラウンド以外の利用はほとんど無いようである。また、公園としての開園期間は、5月～10月の6ヶ月間で、冬期は閉鎖される。



図1 「森の広場」の概略図



写真2 管理棟と野球場



写真3 観察路



写真4 調整池

「森の広場」の動物

序で述べたように、動物全体に対しての系統立った調査は行われていない。鳥類など調査が進んでいる部分もあるが、ほとんどは、まだ十分な結果は得られていない。

不十分ながらまとめたリストの内容を見る限り、青森市近郊で見られる動物種が多く含まれ、ニホンザリガニなどの貴重種も生息する事から、比較的良好な環境が保たれていると思われる。

以下に2009年1月時点の資料でまとめた動物リストを掲載する。なお、解説の通り暫定的なもので有ることをお断りしておく。また、今回の原稿を書くに当たって、追加の資料が得られたので、それらも含めている。

「森の広場」動物リスト (2009年1月現在)

【注1】大分類の分類階級はそれぞれ異なる。また、科名・和名ともリスト作成時の名称。

【注2】出典は以下の通り。

(※1)「森の広場ガイドブック」掲載種(多くは五十嵐正俊氏による)

(※2) 笹森耕二氏からの私信提供資料

(※3) 五十嵐正俊氏からの私信提供資料

(※4) 青森野鳥の会作成「森の広場観察会配付資料」

(※5) 室谷洋司氏からの私信提供資料

【注3】今回の原稿を書くに当たり、追加の情報が得られた。2017年5月に追記した出典は以下の通り。

(※3+) 五十嵐正俊氏からの提供資料

(※5+) 室谷洋司氏からの提供資料

大分類ごとの科・種数 (2017年5月現在)

大分類	科数	種数
鳥類	22科	54種
哺乳類	7科	10種
魚類	2科	3種
爬虫類	3科	6種
両生類	5科	7種
昆虫類	33科	114種
甲殻類	3科	3種
クモ類	6科	8種
軟体動物	4科	5種

◆鳥類

科名、	種名(出典)
カモ科	カルガモ(※4)
タカ科	トビ(※4)、 オオタカ(※4)、 ノスリ(※4)
ハト科	キジバト(※4)、 アオバト(※4)、
カッコウ科	カッコウ(※4)、 ツツドリ(※4)、 ホトトギス(※4)
キツツキ科	アオゲラ(※4)、 アカゲラ(※4)、 コゲラ(※4)
ツバメ科	ツバメ(※4)、 イワツバメ(※4)
セキレイ科	キセキレイ(※4)、 ハクセキレイ(※4)
ヒヨドリ科	ヒヨドリ(※4)
モズ科	モズ(※4)
ミソサザイ科	ミソサザイ(※4)
ツグミ科	コルリ(※4)、 ノビタキ(※4)、 トラツグミ(※4)、 クロツグミ(※4)、 アカハラ(※4)、 ツグミ(※4)
ウグイス科	ヤブサメ(※4)、 ウグイス(※4)、 センダイムシクイ(※4)、 キクイタダキ(※4)
ヒタキ科	キビタキ(※4)、 オオルリ(※4)
エナガ科	エナガ(※4)
シジュウカラ科	コガラ(※4)、 ヒガラ(※4)、 ヤマガラ(※4)、 シジュウカラ(※4)
ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ(※4)
メジロ科	メジロ(※4)
ホオジロ科	ホオジロ(※4)、 カシラダカ(※4)、 アオジ(※4)
アトリ科	アトリ(※4)、 カワラヒワ(※4)、 マヒワ(※4)、 ベニマシコ(※4)、 ウソ(※4)、 イカル(※4)、 シメ(※4)
ハタオリドリ科	スズメ(※4)
ムクドリ科	コムクドリ(※4)、 ムクドリ(※4)
カラス科	カケス(※4)、 ハシボソガラス(※4)、 ハシブトガラス(※4)

◆哺乳類

科名、	種名(出典)
トガリネズミ科	ホンシュウジネズミ(※2)
モグラ科	ホンシュウヒミズ(※2)、 コモグラ(※2)
ウサギ科	トウホクノウサギ(※2)
リス科	ニホンリス(※2)
ネズミ科	ホンドアカネズミ(※2)、 ホンドヒメネズミ(※2)
イヌ科	ホンドタヌキ(※2)、 ホンドギツネ(※2)
イタチ科	ホンドテン(※2)

◆魚類

科名、	種名(出典)
メダカ科	メダカ(※3)
コイ科	シナイモツゴ(放流)(※3)、 フナ(※3)

◆爬虫類

科名、	種名(出典)
ナミヘビ科	アオダイショウ(※2)、 シマヘビ(※2)、 ヤマカガシ(※2)、 ジムグリ(※3)
クサリヘビ科	ニホンマムシ(※3+)
カナヘビ科	ニホンカナヘビ(※2)
[補注] シマヘビの黒色型(カラスヘビ)の記録有り(※3+)	

◆両生類

科名、	種名(出典)
アマガエル科	ニホンアマガエル(※2)
ヒキガエル科	アズマヒキガエル(※2)
アカガエル科	ツチガエル(※2)、 ヤマアカガエル(※2)
アオガエル科	モリアオガエル(※2)、 シュレーゲルアオガエル(※2)
イモリ科	アカハライモリ(※2)

◆昆虫類

科名、	種名(出典)
トンボ科	ウスバキトンボ(※1)、 オオシオカラトンボ(※1)、 シオカラボンボ(※3)、 ノシメトンボ(※1)、 マユタテアカネ(※1)、 ミヤマアカネ(※3)、 ヨツボシトンボ (※1)
ヤンマ科	オオルリボシヤンマ(※3)、 オニヤンマ(※1)、 ギンヤンマ(※3)、 クロスジギンヤンマ(※1)
エゾトンボ科	オオトラフトンボ(※3)、 タカネトンボ(※3)
アオイトトンボ科	アオイトトンボ(※3)、 エゾイトトンボ(※1)、 オオアオイトトンボ(※3)
サナエトンボ科	コサナエ(※1)
モノサシトンボ科	モノサシトンボ(※1)
アゲハチョウ科	アゲハチョウ(※3)、 カラスアゲハ(※5)、 キアゲハ(※5)、 ミヤマカラスアゲハ(※5)、 クロアゲハ(※5+)
シロチョウ科	スジグロシロチョウ(※1)、 スジボソヤマキチョウ(※5)、 モンキチョウ(※5)、 モンシロチョウ(※1)、 ヤマトスジグロシロチョウ(※5+)、 キタキチョウ(※5+)
シジミチョウ科	オオミドリシジミ(※5)、 ゴイシシジミ(※1)、 コツバメ(※5)、 ツバメシジミ(※1)、 トラフシジミ(※1)、 ベニシジミ(※1)、 ルリシジミ(※1)、 ミヤマカラスシジミ (※5+)

- セセリチョウ科 イチモンジセセリ(※5)、 オオチャバネセセリ(※5)、 コキマダラセセリ(※5)、
コチャバネセセリ(※1)、 ダイミョウセセリ(※5)、 スジグロチャバネセセリ(※1)
- タテハチョウ科 アカタテハ(※5)、 イチモンジチョウ(※5)、 ウラギンヒョウモン(※5)、
オオウラギンスジヒョウモン(※5)、 ミドリヒョウモン(※3)、 メスグロヒョウモン
(※1)、 キタテハ(※1)、 コミスジ(※1)、 サカハチチョウ(※3)、 シータテハ
(※5)、 ヒメアカタテハ(※5)、 ルリタテハ(※5)、 ヒオドシチョウ(※5+)
- ジャノメチョウ科 クロヒカゲ(※5)、 ヒメウラナミジャノメ(※5)、 ヒメジャノメ(※5)
- セミ科 アカエゾゼミ(※1)、 アブラゼミ(※3)、 エゾゼミ(※3)、 エゾハルゼミ(※3)、
ヒグラシ(※1)
- バッタ科 イナゴモドキ(※1)、 イボバッタ(※1)、 クルマババッタモドキ(※1)、
トノサマバッタ(※1)、 ナキイナゴ(※1)、 ハネナガフキバッタ(※1)、
ヒシバッタ(※3)、 ヒナバッタ(※1)、 ミカドフキバッタ(※1)
- キリギリス科 アシグロツユムシ(※1)、 ウスイロササキリ(※3)、 エゾツユムシ(※3)、
コバネヒメギス(※1)、 ヒメクサキリ(※1)、 ヒメギス(※1)、 ヤブキリ(※3)
- コオロギ科 エゾスズ(※1)、 エンマコオロギ(※1)、 カンタン(※1)、 シバスズ(※1)、
タンボオカメコオロギ(※1)、 マダラスズ(※1)
- ウスバカゲロウ科 ウスバカゲロウ(※1)
- シャチホコガ科 ツマジロシャチホコ(※3)
- イカリモンガ科 イカリモンガ(※1)
- イラガ科 イラガ(※1)
- カラハガ科 オビカレハ(※1)
- ヒトリガ科 スジモンヒトリ(※1)、 ヒトリガ(※3)、 ベニシタヒトリ(※1)
- トビケラ科 エグリトビケラ(※3)、 ムラサキトビケラ(※3)
- カミキリムシ科 アカハナカミキリ(※3)、 ゴマダラカミキリ(※1)、 ヨツスジハナカミキリ(※1)
- ミズスマシ科 オオミズスマシ(※1)
- センブリ科 クロセンブリ(※3)
- ヘリカメムシ科 キバラヘリカメムシ(※1)
- ツノカメムシ科 エゾツノカメムシ(※1)
- カメムシ科 クサギカメムシ(※1)
- カマキリ科 オオカマキリ(※3)
- コガネムシ科 マメコガネ(※1)、 セマダラコガネ(※1)、 ヒメコガネ(※1)
- ホタル科 クロマドボタル(※3)、 ゲンジボタル(※1)、 ヘイケボタル(※3)
- スズメバチ科 カラマツハバチ(※1)、 キイロスズメバチ(※1)、 コガタスズメバチ(※1)
- [補注] コオロギ科のクサヒバリまたはキンヒバリの鳴き声を確認(※3+)

◆甲殻類

- | 科名、 | 種名(出典) |
|-----------|-------------|
| アメリカザリガニ科 | ニホンザリガニ(※1) |
| テナガエビ科 | スジエビ(※1) |

ヌマエビ科

ヌカエビ(※3)

◆クモ類

科名、

種名(出典)

ジョロウグモ科

ジョロウグモ(※1)

カニグモ科

ヤミイロカニグモ(※1)、 ワカバグモ(※1)、

ナゲナワグモ科

オオトリノフンダマシ(※1)、 トリノフンダマシ(※1)

フクログモ科

カバキコマチグモ(※1)

コモリグモ科

ウヅキコモリグモ(※1)

ハエトリグモ科

ネコハエトリ(※3)

◆軟体動物

科名、

種名(出典)

カワニナ科

カワニナ(※1)

オカモノアラガイ科

オカモノアラガイ(※1)

モノアラガイ科

モノアラガイ(※3)

オナジマイマイ科

アオモリマイマイ(※3)、 ウスカワマイマイ(※3)



ハクセキレイ



ニホンカナヘビ



カラスヘビ(シマヘビの黒色型)



ニホンアマガエル



トノサマガエル



モリアオガエル



オニヤンマ



カンタン



オオカマキリ



キバラヘリカメムシ



キアゲハ



モンキチョウ



ウラギンスジヒョウモン



メスグロヒョウモン



クジャクチョウ



ルリシジミ



ニホンザリガニ



スジエビ



トリノフンダマシ



カワニナ